

令和5年度徳島大学薬学部薬用植物園一般開放事業

今林 潔

徳島大学技術支援部（薬学部薬用植物園）

1. はじめに

徳島大学薬学部薬用植物園は、昭和41年度に薬学部学生の教育と研究を目的として設立された。園内には約700種類の植物を、漢方薬園、水生植物園、民間薬園、絶滅危惧植物園、ハーブ園等のテーマ別に栽培している。本園では、社会貢献の一環として1年に一度の一般開放を継続して行っており、今年度で通算34回目の実施である。今年度の一般開放では、園内を開放するとともに、イベントとして薬草茶に関する情報や使用に関する注意を示したパネルの展示と薬草茶の試飲を行い（図1および2）、約750名の来園を得た。また、本事業はTVや新聞等の各種報道機関に取り上げられた（図3）。以下、薬草茶に関するパネル展示の内容の一部を紹介する。



図1 市販される薬草茶

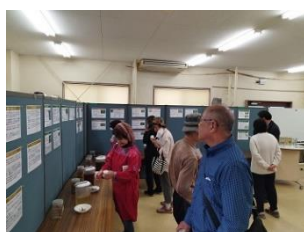


図2 薬草茶試飲コーナー



図3 地元新聞社記事

2. 薬草茶の作り方

水600 mLに薬草20 gを入れ、沸騰したら弱火でじっくり約30分煎じる。センプリ茶は沸騰水に全草を色が出るまで振り出す。フレッシュハーブティは、ティーポットにニッケイ、レモングラス、レモンバーム、およびスペアミントの葉を入れ、300 mLの熱湯に注ぎ約3分間抽出する。

3. 薬草茶とその効能

①ハブ茶（エビスグサの種子）：便通の改善、②柿の葉茶：高血圧予防、③ドクダミ茶（地上部）：便秘解消、④ゲンノウショウコ茶（地上部）：整腸、⑤杜仲茶（葉）：高血圧予防、⑥ハトムギ茶（種子）：美肌効果、⑦桑の葉茶：血糖上昇の予防、⑧ウラジログン茶（葉や樹皮）：結石の予防、⑨センプリ茶（全草）：胃痛や腹痛の改善、⑩阿波晩茶（徳島県産の伝統発酵茶）：整腸、花粉症改善、⑪フレッシュハーブティ：リラックス効果。一般開放では、これらの薬草茶を作成し、来園者に試飲していただいた。

4. チャノキ「茶」の分類

一般に広く飲用される緑茶、紅茶、ならびに烏龍茶は、いずれもチャノキの葉から製造される「茶」である。この「茶」は、製造工程における加熱処理で茶葉に含まれる酸化酵素を失活させる「不発酵茶（緑茶など）」と、「発酵茶」に分類される。「発酵茶」はさらに、茶葉の酸化酵素による発酵を行う「半発酵茶（烏龍茶など）」と、さらに強度の発酵を行う「強発酵茶（紅茶など）」、ならびに微生物による発酵を行う「後発酵茶」に分類される。

阿波晩茶は、徳島県の上勝町や那賀町で伝統的に製造される「後発酵茶」で、その製造技術は2021年に重要無形民俗文化財に指定されている。乳酸菌発酵によるさわやかな風味をもち、緑茶等と比較してカフェインの含有が少ないため、乳幼児でも飲用できるお茶である。

5. おわりに

薬用植物園一般開放開催にあたり、薬草茶に関するパネル展示とその解説、ならびに薬草茶の試飲にご協力いただいた徳島大学薬学部生薬学研究室の教員と学生諸氏に深謝します。